



寺子屋スタイルの授業風景。生徒たちは自由な雰囲気の中で学ぶ楽しさを知り、「自ら学ぶ」意識を高めていく。

教育最前線 中高一貫校生向けの英語専門塾

平岡塾(アイ・エイ・プレップスクール平岡)

“揺るぎない英語力”とともに “英語で探究するマインド”が身についた

国際政治やビジネスシーン、世界最先端の医療現場などでは、ただ「伝わる」だけの英語では通用しない。教養あるネイティブスピーカーに匹敵する英語力を身につけてこそ、真の国際人として活躍できる。そんな高度な英

語力の習得を目指して、中高生の教育に取り組むのが「平岡塾」だ。単なる受験テクニックにとどまらない独自の学習法や英語の深みに触れる喜びについて、同塾の卒業生である翠川晴彦さんに語っていただいた。

圧倒的な量と質を備えた教材で基礎を徹底的にたたき込む

——翠川さんが平岡塾に通うようになったきっかけを教えてください。

翠川 中学校に入ってからすぐに通い始めました。私は中学受験をしたのですが、数学や理科は受験でも勉強してきましたが、初めて触れる英語に苦手意識を持たないように、と両親が考えたのがきっかけです。私はあまり勉強熱心な子供ではありませんでしたから、最初は渋ったのですが、「嫌だったらやめてもいいから」と説得されました(笑)。それでも中学1年から高校3年まで6年間通い続けたのは、やはり楽しかったからだと思います。

——それまでの学習塾と比べてどんな印象を持ちましたか。

翠川 平岡塾は寺子屋方式で、座卓に座って3時間という長時間の授業を受けます。最初はそういう授業形態に驚きました。

——平岡塾のカリキュラムについて教えてください。

翠川 中学のころは、まずしっかりと英文法の知識を学びます。基本をたたき込むという点ではすごく厳しくて、大量のプリントで基本構文を丸暗記するなど、かなりみっちり勉強します。文法は、中2の10月までに「応すべて終わらせました」。

授業は宿題の解説がメインですね。宿題の内容は、例えば文法の確認や読

結果、また別に得るものがある。英語以外の知性や知識が身につく実感がありません。

英語という体系を学ぶから受験にも対応できる底力がつく

——英語以外で身につけたことはありますか。

翠川 例えば、高校1年生のころに「方法序説」を読んだとき、授業で先生が学生を一人ひとり当てて和訳させま



平岡塾で使用している教材。ラッセル、オーウェルなど、古典的名著の名文が中心だ。

す。みんな普通に訳していましたが、私のところに来ると、突然先生が「デカルトの思想について解説しなさい」と言うんです。私は哲学が好きで、普段から先生に議論を挑んだりしていましたから、先生も面白がってそういうことをしてくる。クオリエイの高い教材を使っている、そこから議論が発生したり、いろいろな考え方とか自分なりの意見が生まれてきます。それが私にはとても印象的でした。

——医学部受験への対応力に不安はありませんでしたか。

翠川 受験テクニックだけの英語しか勉強していないと、おそらく受験以外の英語には対応できないと思います。しかし英語という体系、英語という言語そのものを学んでいけば、受験にも対応できるといえます。私は、平岡塾ではそんなに英語ができるほどではなかったと思

解、英作文などいろいろです。量もさることながら、特徴的なのはその中身です。文法の宿題にしても、普通の塾ではただの答え合わせが終わるところを、なぜ正しいのか、なぜ間違っているのか、間違っているのならばどう訂正すればいいのかがまで解説されます。また、ある人がAという答えを出せば、その思考の道筋にまで突っ込んで、個々の学生に沿ったアドバイスがなされることもありま

す。1つの問題から得られる情報が多いので、それはすごく勉強になりました。

抵抗なく英語の情報にアクセスできることがアドバンテージに

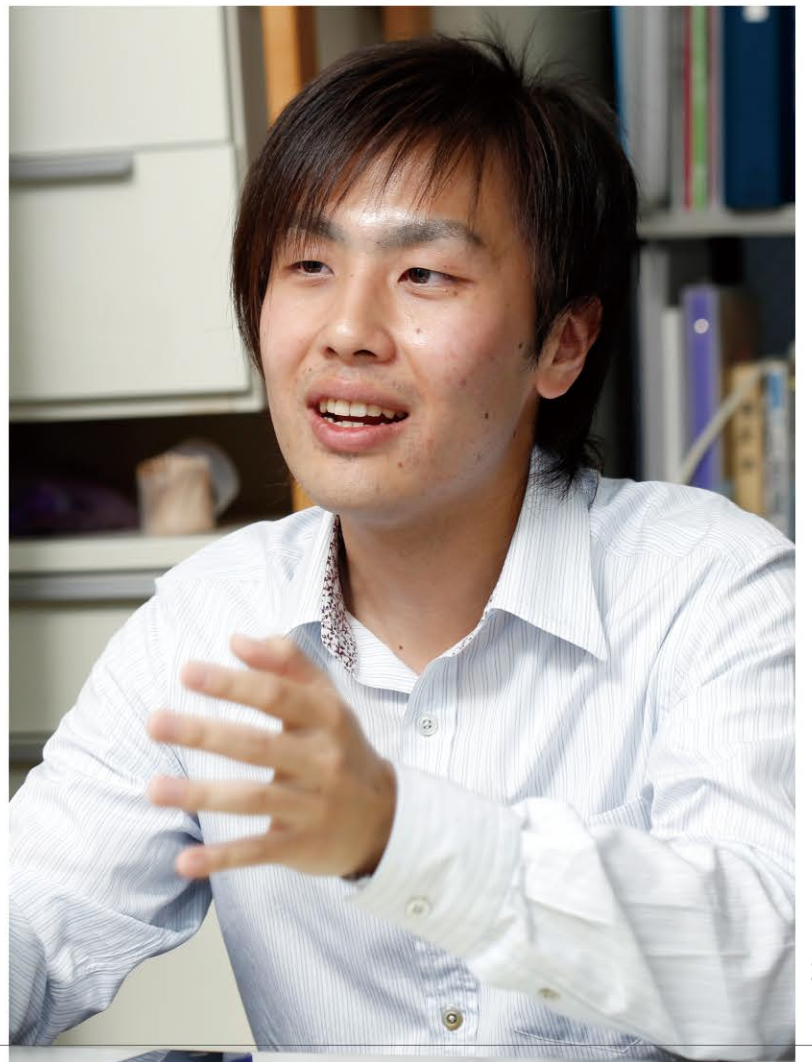
——大学の医学部に入ってから、どんなことが役に立っていますか。

翠川 英語の文献を読むのに役立っているのはもちろんですが……。大学に入ってからわかったのですが、英語の成績がいい人でも「英文を読むのは面倒くさい」という人は結構たくさんいるんですよ。一方で、私は大量の英文を読むことにまったく抵抗がありません。それは結構重要なことだと思っています。

海外留学をすれば英語はどうしても必要になりますが、日本で暮らしている、今はインターネットで世界中の情報にアクセスできますから、英語の情報にアクセスできるかできないかで、情報量に桁違いの差が出てきます。英語を読むのにアレレギーなく情報を収集できるのはすごく強みになりますし、実際、私のアドバンテージになっています。もちろんこの先、医師になったときも当然必要になるだろうと思います。

——最後に、医学部進学を考えている方にアドバイスをお願いします。

翠川 英語に限らず、大学受験にあたっては、自分なりの勉強法を身につけることが大事です。世の中にはいろいろな勉強法がありますが、どれがベストというのはおそらくないでしょう。自分



単なる英文和訳を超えて思想の背景まで踏み込んだ解説

——教材はどんなものを使っていますか。

翠川 文学作品を読むことももちろん印象に残っていますが、文法的な知識の問題でも英文のクオリエイが高いことですね。英語を学ぶために無理やり作られた文章ではなく、書かれている内容が「ふむふむ、なるほど」といったものが多いですね。だから英文和訳にしても、英語の勉強になるのももちろん、訳した

合った方法を見つけてしっかりと勉強していけば、どこかの塾に入らなければいけないということはないと思います。

同じように英語を学ぶのでも、受験テクニックだけを身につけたのであれば、どこかの塾でもいいと思います。もちろん平岡塾なら、受験に対応するのに十分すぎるくらいの英語力は身につきます。ただ私がそれ以上に主張したいのは、平岡塾にはプラスアルファの何かがある、ということなんです。そのプラスアルファの何かは人によって違うと思いますが、面白いことに出会いたい、面白い環境に身を置きたい、面白い人たちと知り合いたい。そういう人にはお勧めです。英語の能力が身につくのは当然のこととして、それにプラスアルファの何かがあることが、最大の魅力なのだろうと思います。

平岡塾とは

名門中学・高校の生徒が数多く通い、東大合格率80%超(2013年度182人中161人合格)と高い実績を誇る英語専門塾。合格実績もさることながら、受験のための英語ではなく、一生使える“本物”を身につけられるとの評価が高い。実績、卒業生の多くが高い英語力を活用、各分野の第一線で活躍している。



平岡塾著の「日本の「タメ英語」を叩きなおす」(主婦と生活社)。真剣に英語を学びたい人のためのバイブルだ。

平岡塾 / TEL:03-3463-7535 <http://www.hiraokajuku.co.jp/>

筑波大学 医学群医学類 6年生
翠川晴彦さん